

公立大学法人大阪府立大学
平成27事業年度の業務実績に関する評価結果
〈たたき台〉

平成28年8月
大阪府公立大学法人大阪府立大学評価委員会

目 次

1 公立大学法人大阪府立大学の年度評価の考え方	1 ページ
2 全体評価	2 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
<全体評価にあたって考慮した事項>	
① 公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標	
② 平成27年度における重点的な取り組み	
③ 特筆すべき取り組み	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3 大項目評価	
3-1 「教育研究等の質の向上」に関する大項目評価	4 ページ
(1) 進捗状況の確認結果	
(2) 地域貢献及び国際化に関する評価結果と判断理由	
(3) 進捗状況の確認や評価にあたっての意見、指摘等	
3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価	7 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-3 「財務内容の改善」に関する大項目評価	9 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-4 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価	11 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-5 「その他業務運営に関する重要目標」に関する大項目評価	12 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	

1 公立大学法人大阪府立大学の年度評価の考え方

- 本評価委員会においては、「公立大学法人大阪府立大学にかかる年度評価の考え方について」（平成25年7月30日決定平成26年9月1日改正）に基づき、次のとおり、平成27事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

<評価の基本方針>

評価にあたっては、国立大学法人評価委員会における評価方法等を踏まえつつ、特に、法人化を契機とする大学改革の実現、教育研究の特性への配慮、公立大学としての地域における役割と府民への説明責任の3点を考慮した。

<評価の方法>

評価は「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人による自己評価・自己点検の結果をもとに、業務実績に関する事実確認、法人からのヒアリング等を通じて、年度計画の進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価・自己点検の妥当性の検証と評価を行う。また、「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況全体について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②評価委員会による小項目評価、③評価委員会による大項目評価の手順で行う。

①法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとにI～Vの5段階で自己評価を行う。

②委員会小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにI～Vの5段階による評価を行う。

③委員会大項目評価

評価委員会における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

<「教育研究等の質の向上」に関する項目の取り扱い>

「項目別評価」のうち、「教育研究等の質の向上」（「地域貢献等に関する項目」及び「国際化に関する項目」を除く）に関する項目については、教育研究の特性への配慮から、その専門的な評価については「認証評価機関による評価」を踏まえることとした。したがって、本評価委員会としては専門的な観点からの評価は行わず、進捗状況の確認にとどめた（地方独立行政法人法第79条参照）。

- ただし、第2期中期目標期間が開始する平成23事業年度より、「教育研究等の質の向上」の項目のうち「地域貢献等に関する項目」及び「国際化に関する項目」については、進捗状況の確認にとどまらず、評価を行うこととした。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 平成27事業年度の業務実績に関する評価については、4ページ以降に示すように、「教育研究等の質の向上（地域貢献及び国際化の項目のみ）」「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」及び「その他業務運営に関する重要目標」の5つの項目すべてについて、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- また、進捗状況の確認にとどめることとしている地域貢献及び国際化の項目以外の「教育研究等の質の向上」の項目については、「計画どおり」進捗していることを確認した。
- 平成27事業年度の業務実績においては特に、国家試験合格率について高い水準を維持するとともに、人材育成プログラムを充実させるなど、社会に貢献する優秀な人材の育成に取り組んだことが高く評価できる。
- また、大学・工業高等専門学校とともに、公開講座や出前授業について年度計画を上回る件数で実施しており、その内容も高度で充実したものであると認められることから、地域の教育拠点としての役割を果たすとともに、地元企業・地元教育機関への貢献を推進したことについて評価する。
- 大学教員数については、教育・研究活動への影響に配慮したことから今年度の数値目標を達成していないものの、経営努力により支出削減が実現できていることが認められる。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標、平成27年度の重点的な取組み等を総合的に評価し、平成27事業年度の業務実績については、「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」とした。
- なお、法人の取組みを俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。
「地域貢献の取組みの中で、社会に貢献する優秀な人材を育成・輩出していることは評価できる。引き続き、教育研究水準の維持・向上のため、自主財源の確保に努めるとともに、若手教員の採用・育成に注力し、教員の年齢分布への配慮や適正配置の維持を図るなど、組織の活性化に取り組まれない。また、様々な取組みの成果について積極的に情報発信されることも期待する。」

教育研究等の質の向上 (4ページ)	「計画どおり」進捗していることを確認 ※なお、地域貢献及び国際化の項目については、A評価に該当する				
	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
業務運営の改善及び効率化 (6ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
財務内容の改善 (8ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
自己点検・評価及び情報提供 (9ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
その他業務運営に関する重要目標 (10ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり

法人の基本的な目標、平成27年度の重点的な取組み等を総合的に考慮し・・・

<全体評価の評価結果>

「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

＜全体評価にあたって考慮した事項＞

① 公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標

公立大学法人大阪府立大学は、従来から広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教育研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、応用力や実践力に富む有為な人材の育成を行うとともに、その研究成果の社会への還元を図り、もって地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。この目的に加え、新たな公立大学法人大阪府立大学としての改革を着実に推進するための取り組みを行う。

② 平成27年度における重点的な取り組み

- ・ 国家試験合格率の向上
- ・ EDGEなどの人材育成プログラムの充実
- ・ 公開講座、出前授業の充実
- ・ 自治体等との連携協定の拡大
- ・ 学生の国際化教育の強化
- ・ 経常経費の抑制
- ・ 記者懇談会の開始

③ 特筆すべき取り組み

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取り組みについて、次のとおり確認した。

- ・ 平成27事業年度の業務実績においては特に、国家試験合格率について高い水準を維持するとともに、人材育成プログラムを充実させるなど、社会に貢献する優秀な人材の育成に取り組んだことは高く評価できる。
- ・ 大学・工業高等専門学校とともに、公開講座や出前授業について年度計画を上回る件数で実施しており、その内容も高度で充実したものであると認められることから、地域の教育拠点としての役割を果たし、また地元企業・地元教育機関への貢献を推進したことについて評価する。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 地域貢献ナンバーワン大学への取り組みの中で、社会に貢献する優秀な人材の育成・輩出をはじめ、多くの活動が充実して実行されていることは評価に値する。今後も継続して取り組まれない。
- 大学教員数の削減については、教育・研究活動への影響に配慮したことから今年度の数値目標を達成していないものの、経営努力により支出削減が実現できており、全体として財務内容の改善が認められる。
- 様々な充実した取り組みが進められており、その中には府民の関心の高いものも多いことから、その成果について、積極的に情報発信されるよう期待する。

3-1 「教育研究等の質の向上」に関する大項目評価

(1) 進捗状況の確認結果

○ 「教育研究等の質の向上」の地域貢献及び国際化以外に関する11の小項目について、進捗状況をチェックしたところ、教育、研究いずれの分野においても、全体的に計画どおり進捗しており、教育研究活動が着実に進められるとともに、その質的向上が図られていることを確認した。なお、次の点についても進捗があったことを確認した。

- ・企業をはじめ諸機関と連携し、リーディング大学院やグローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGE）などにおいて、イノベーションに長けた人材の育成に不可欠な実学の場の設定を積極的に行っていることが認められる。

- ・部局を超えて教育を行う仕組みの整備が進められ、平成28年度から大学院共通教育科目を開設することを決定するなど、大学院の教育プログラムの面での進捗が認められる。

(2) 地域貢献及び国際化に関する評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果では、4項目すべてが小項目評価のⅢまたはⅣに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

- ・地域貢献について、大学・工業高等専門学校とともに、公開講座や出前授業について年度計画を上回る件数で実施しており、その内容も高度で充実したものであると認められる。

- ・諸機関との連携について、新たに羽曳野市との包括連携協定を締結するなど、自治体等との連携の拡大を着実に推進していることは評価できる。

- ・国際化について、国際交流会館の開設など留学生受入れ・学生の海外留学の促進に取り組んでいることに加え、「大阪府立大学グローバル化戦略」を策定するなど、さらなるグローバル化を進めていることは評価できる。

- ・また、工業専門学校の地域貢献について、ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテストに学生が応募し、4部門すべてで入賞し、商業部門賞を受賞したことは評価できる。

- ・全体として計画どおりの進捗が認められる。

○ 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」に進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

4項目すべてが小項目評価のⅢまたはⅣに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	III	II	I
	計画を大幅に上回って実施している	計画を上回って実施している	計画を順調に実施している	計画を十分に実施できていない	計画を大幅に下回っている
地域貢献ナンバーワン大学 (35)～(43)	—	★	—	—	—

諸機関との連携の強化 (44)～(53)	—	—	★	—	—
国際化 (54)～(56)	—	—	★	—	—
【高専】地域貢献等 (77)～(80)	—	★	—	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

(35)～(43) 地域貢献ナンバーワン大学

- 国家試験合格率については、高い目標値の達成に向け取組むとともに、EDGEなどの人材育成プログラムの充実に取組んだ。
- 教育内容等の改善のため引き続き卒業後5年目の卒業生にアンケートを実施するとともに、新たに修了後5年目の修了生にアンケートを実施した。
- 中小企業向けの補助金獲得支援や共同・受託研究件数の確保などに取組んだ。
- 21世紀科学研究機構を核として分野横断型研究を推進した。
- 府内市町村との連携事業を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- COC事業や人材育成事業を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 公開講座数が年度計画を上回っている。
- I-siteを活用したセミナーの実施など、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 貴重図書の実施等、年度計画に基づき取組みを実施した。

(44)～(53) 諸機関との連携の強化

- 新たに羽曳野市との包括連携協定を締結した。
- 自治体等と連携した研修等を実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 府内教育委員会と連携し、高大連携出張講義等を実施した。
- 府内医療機関等の就職ガイダンスなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 実習病院との連携を図るなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 客員研究員の受け入れなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- COC事業の実施や大阪市立大との連携事業等を多数実施した。
- ものづくり中小企業後継者育成プログラムを和泉市等と協力して実施した。
- 企業との協力体制でホウ素薬剤の開発に特化した研究拠点「BNCT研究センター」を運営するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。

(54)～(56) 国際化

- 国際交流会館を開館し、様々な異文化交流行事を開催するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 学生の留学支援、海外学会発表を促進するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 日本・アジア青少年サイエンス交流事業の採択、推進や泰日工業大学留学生支援事業の推進と継続拡充、留学生受入数の確保など、年度計画に基づき取組みを実施した。

(77)～(80)【高専】地域貢献等

- 引き続きSIPプロジェクトに参画するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 産学官マッチングフェアに参加するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 事業者団体等の依頼により講師を派遣するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 児童・生徒対象の公開講座、出前授業については年度計画を上回っている。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 国家試験合格率について、高い目標値の達成が維持されていることは評価できる。人材育成プログラムの充実については、今後も継続して取り組まれない。
- 海外からの留学生の受入れ状況については評価できる。今後は、「大阪府立大学グローバル化戦略」を推進し、学生の海外派遣等の充実にも注力されたい。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。
 - ・すべての項目において、年度計画を順調に実施していると認める。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

4項目の全てが小項目評価のⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
法人組織の改革 (81)～(82)	—	—	★	—	—
教職員組織の運営の改善 (83)～(87)	—	—	★	—	—
教員組織の改革(88)	—	—	★	—	—
事務組織の改革(89)(90)	—	—	★	—	—
コンプライアンス・リスク マネジメントの強化(91)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

(81)～(82) 法人組織の改革

- 理事長・学長のトップマネジメントの発揮など、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 教員活動情報データベースシステムを安定的に運営するなど年度計画に基づき取組みを実施した。

(83)～(87) 教職員組織の運営の改善

- テニユア・トラック制度の継続実施など、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 府大の教員業績評価制度の評価結果を踏まえた面談を実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 高専の教員業績調書に基づき校長面談を実施するなど年度計画に基づき取組みを実施した。
- 福利厚生事業等の周知活動を展開するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 次期(第3期)情報システムの調達を開始するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。

(88) 教員組織の改革

- 学術研究院の見直しを実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。

(89)(90) 事務組織の改革

- 法人職員化の推進など、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 法人統合の動向を踏まえた制度等検討など、年度計画に基づき取組みを実施した。

(91) コンプライアンス・リスクマネジメントの強化

- 国の不正防止ガイドラインに対応した体制を確立し具体的な不正防止計画に基づき取組をすすめるなど、年度計画に基づき取組みを実施した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 優れた人材を確保するためには、女性研究者の支援は重要であり、今後一層必要性が高まると考えられることから、継続的に取り組まれない。
- 若手教員の採用・育成に注力し、教員の年齢分布への配慮や適正配置の維持を図るなど、組織の活性化に取り組まれることを期待する。

3-3 「財務内容の改善」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」）となる。
- ・教員削減については年度計画を予定どおり実施できなかったものの、経営努力により支出削減が実現できていることから、年度計画を順調に実施していると認め、総合的に評価した結果、「Ⅲ」評価が妥当と判断した。
- ・すべての項目において、年度計画を順調に実施していると認める。
- これらのことから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

4項目の全てが小項目評価のⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
経常経費の抑制 (92)～(94)	—	—	★	—	—
自主財源捻出(95)	—	—	★	—	—
資産の運用管理の改善 (96)～(97)	—	—	★	—	—
学生納付金(98)	—	—	★	—	—
運営費交付金(99)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

(92)～(94) 経常経費の抑制

- 財務諸表のセグメント分類表示など、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 教員削減については年度計画を予定どおり実施できなかったものの、経営努力により支出削減が実現できており、全体として成果が認められる。

(95) 自主財源捻出

- 外部研究資金の獲得が伸び悩んだが、寄附金獲得を伸ばすなど、年度計画に基づき取組みを実施した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 教員削減については、教育・研究活動への影響に配慮したことから年度計画を予定どおり、実施できなかったものの、様々な業務改善を進める等、経営努力により支出削減が実現できており、全体として成果が認められる。
- 経常経費の抑制においては、教員数の削減は、主な取組みとして位置づけられるが、それに拘泥するあまり、教育・研究の質の低下を招くことがないように留意されたい。

3-4 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
 - ・記者懇談会を開始するなど、認知度向上とブランド力の強化に取り組んだ。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

小項目は1項目のみであり、評価はⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
自己点検・評価及び情報提供 (100)～(105)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

- 府大の認証評価（H28）受審にむけ自己評価作業をすすめるなど、年度計画に基づき取り組みを実施した。
- データ集の学外公開を進めるなど、年度計画に基づき取り組みを実施した。
- 高専の自己点検・評価を実施し、改善に取り組んだ。
- 記者懇談会を開始するなど、年度計画に基づき取り組みを実施した。
- 学術情報リポジトリのコンテンツを充実するなど、年度計画に基づき取り組みを実施した。
- 大学ランキングの評価基準等の把握に努めるなど、年度計画に基づき取り組みを実施した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 市大との統合については、府民の関心も高いことから、これに関する情報を種々の機会を利用して、積極的に発信されるよう期待する。
- 様々な取り組みを実施していることについて、その成果を府民に積極的にアピールされるよう期待する。

3-5 「その他業務運営に関する重要目標」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

小項目は1項目のみであり、評価はⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
その他業務運営に関する 重要目標 (106)～(111)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

- キャンパスプランに基づき改修整備を推進し、年度計画に基づき取組みを実施した。
- エコキャンパスの取組みを推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 高専において光熱水費の削減に取り組んだ。
- 備蓄飲食料や装備、設備について段階的に整備を進めるなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- メンタルヘルスケア研修を開催するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。
- 人権・ハラスメント研修を開催するなど、年度計画に基づき取組みを実施した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 教職員向けの研修については、参加率が高く、実効性のある取組みであると認められる。